

ぶらたなす

NO.5

葉月

(はづき)

長井高等学校

図書委員会

図書館

2024.8.27

再び読んでみては？

素敵な夜になりました。最近、何故だか、どんなきっかけでということでもないのですが、自分の未来やその前段階としての現在について、このままでよいのか、や、意外にも本気では考えていないことに気付いたのです。高校卒業の日までに、自分は何らかの軌道の上にいるのかと思うと、希望よりも不安のほうが大きくなっていました。ある日の夜、暑さで寝付けなかったため、本でも読もうと手をのばしました。そこにあったのは『君たちはどう生きるか』でした。ページをめくると、今まさに悩んでいることのヒントが目に入ってきました。偶然に驚きつつ、高校初日の新鮮な心を思い出させた、素敵な夜でした。

(2-5 図書委員)

図書館長より

押忍！ 図書館長です。今回紹介するのは、Eテレで3回もアニメ化された「異世界もの」の金字塔、橙乃ままれ（とうの・ままれ）の『ログ・ホライズン』（KADOKAWA）だ。

本作の世界観を把握するには、「MMORPG」について知っておく必要がある。「大規模多人数同時参加型オンラインRPG」と訳され、「自作のキャラを操り、他のプレイヤーと協力して、運営が用意したイベントをクリアする」というゲームで、00年代に流行した。

物語は、作中で絶大な人気を誇るMMORPG〈エルダー・テイル〉の世界に、日本だけでも約3万人のプレイヤーが閉じ込められてしまう、後に〈大災害〉と呼ばれる異変から始まる。大学院生の城鐘恵（しろがね・けい）は、付与術師のシロエとして、守護戦士の直継、暗殺者のアカツキ、盗剣士のにゃん太達と共に、この世界で生き延び、現実世界に帰還することを目指すのだった。

巷に溢れる「異世界もの」では、主人公が転生時に与えられたチートスキルで無双したり、現実世界ではそれほど大した価値がないとされる特技で成り上がったりするのが定番のようだが（※個人の感想です）、本作の〈冒険者〉達は、レベルやステータスといったゲームシステムに依拠した「値」だけでなく、リアル的人生で身に付けた知識や技能も駆使して、地平線の彼方に、まだ誰も見たことのない景色を追い求める。特にシロエの、己の美学を貫く意志の力と、不可能を可能にする独創性には、感嘆を禁じ得ない。また、橙乃は経済学や社会学、政治学などに明るく、雑学ないし新書レベルの（＝過度に専門的でない）それらが作中で重要な役割を担い、物語の展開に必然性とリアリティを与えている。

図書館の利用推進が目的の本稿でこんなことを言っただけは身も蓋もないが、アニメだけでも一見の価値ありだ。でもやっぱり、小説でしか摂取できない栄養がある。もし気に入ったら、ぜひ原作も読んでみてね。

図書委員のおすすめの本

『でいすべる』

今村昌弘：著
文藝春秋

掲示板のユウスケ、ミナ、サツキはある奇妙な事件の真相を探ることになる。被害者が残した、六つの怪談と、「七つ目の不思議を知ったら死ぬ」という文章。一年も見つからない犯人。そして、ユウスケが目撃したのは、華奢な体と不正に大きな頭を持つ黒い影。捜査が進むにつれて現れる危険や、異変の数々。それでも突き進む三人が見つけた真相とは。

この本は『屍人荘の殺人』などでも有名な今村昌弘さんの作品です。ミステリーなのにホラーなので、残暑をひんやりと過ごしたい方にもおすすめです。もちろん、ミステリー好きさんにも是非読んでほしい一作です。（2-5 図書委員）